

木材と心理

-木質空間の快適性を考える-

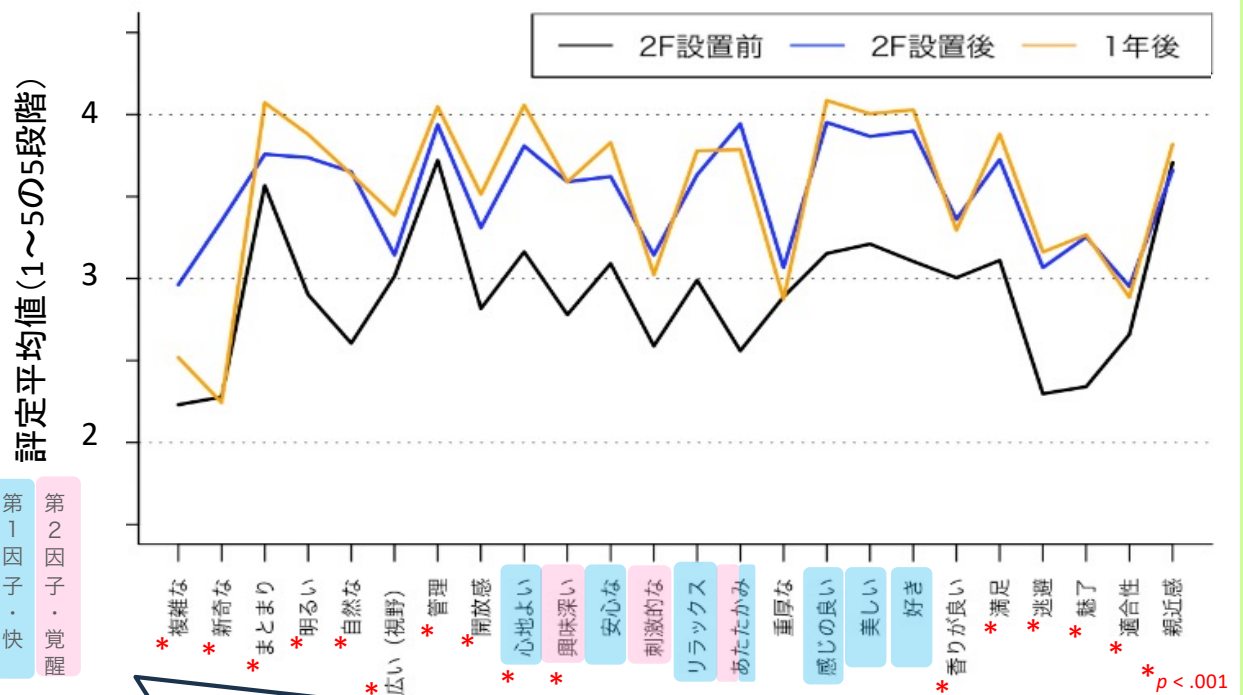
木材と心理―木質空間の快適性を考える―



木質化前のオフィス。木視率(画面全体に占める木材部分の割合)は、16%



木質化後、木視率は33%に。利用者を対象にアンケート調査を行いました。



心地よさや満足度については、設置前<設置直後<1年後と、1年後にもっとも高く評価されたことがわかりました。回復特性(勉強や仕事などに集中することで生じる精神的疲労を回復させる性質)など、多くの項目で木質化前より木質化後の方が高く評価されました。

木造ビルなど、都市の中に多様な木質空間が生まれつつあります。私たちはそのような空間をどのように捉えているのでしょうか。環境心理学の視点から考えます。

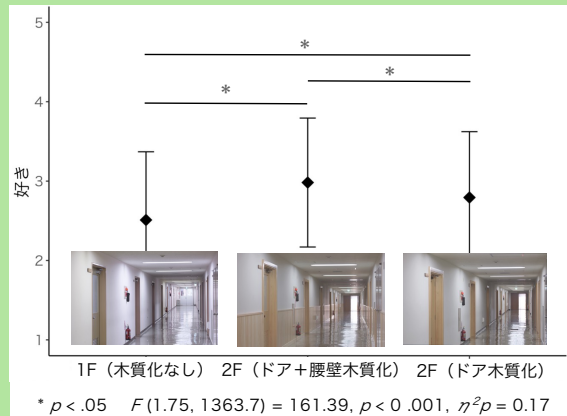
講師：本山 友衣(構造利用研究領域)

木材と心理-木質空間の快適性を考える-

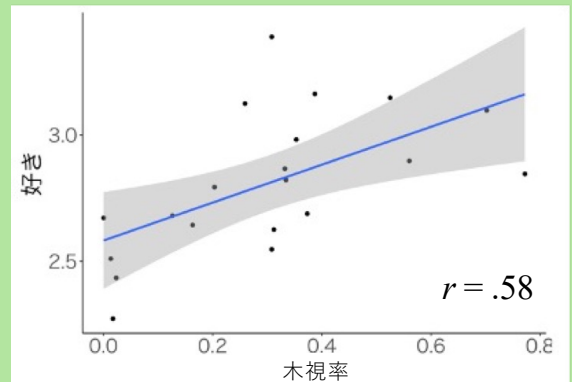
同じ写真を用いてインターネット調査を行い、広く一般の方にも木質化前後のオフィスの印象について評価していただきました。

好ましさの評価について、利用者を対象とした場合と同じ傾向がみられました。

オフィス内装写真における木視率が高いほど、また「木が使われている」と感じるほど、好ましさが高く評価されたと考えられます。



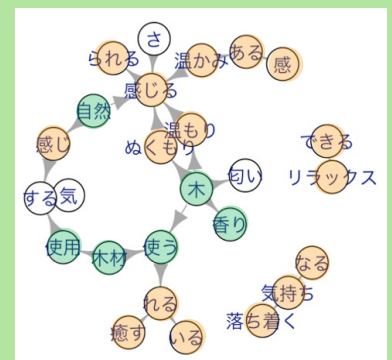
好ましさは、木質化なし < ドアのみ木質化 < ドア+腰壁木質化 の順となり、利用者の評価と同様。



他のオフィス写真を加えて20枚とし、木視率と好ましさの関係を検討したところ、中程度の相関。主観的木材量と好ましさの相関は $r = .71$ で、さらに高かった。

木材利用のイメージについて、自由記述で回答していただきました。記入いただいた文章を品詞ごとに集計し、視覚化したのが右の図です。

ワードクラウドでは出現頻度が高い語が大きく表示され、バイグラムでは共起の状態を確認することができます。「自然」「木」「香り/匂い」が、「温かみ」「ぬくもり」、「リラックス」につながる事がわかります。

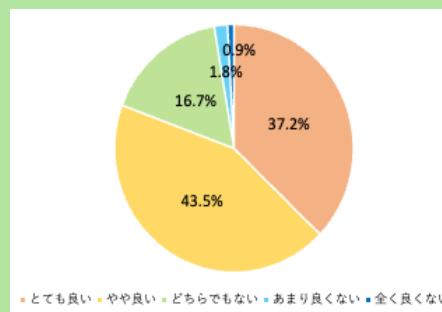


ワードクラウド(左)とバイグラム(右)

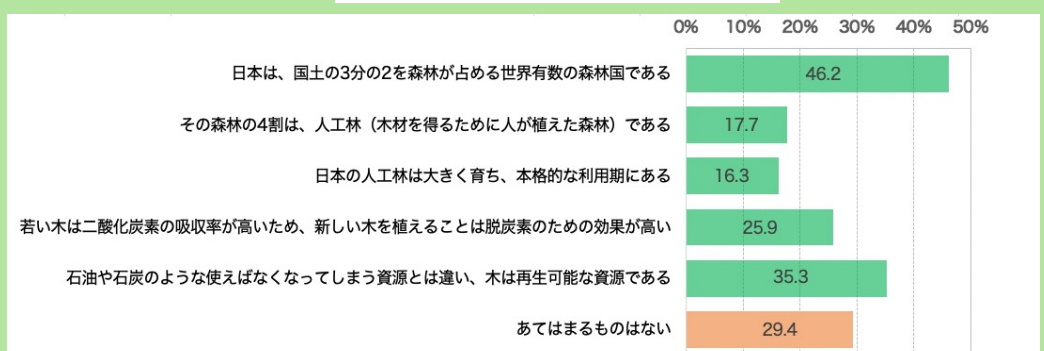
木材利用のイメージについて、「とても良い」～「全く良くない」の5段階でも回答いただいた結果、比較的良いイメージをもつ方が多いことがわかりました。他方で、約半数の方が日本に森林が多いことは知っているものの、人工林の状況や森林の二酸化炭素吸収率などに関する知識については、全体的な認知度は低い状況でした。

また、環境態度(人と環境の関係性についての一般的な信念)が木質空間の評価に影響する可能性も示唆されました。

木材のもつ物理的な特性や生体応答なども含め、さまざまな視点から快適性を考えることが求められます。



木材利用のイメージ(5段階評価)については、80.6%の方が「とても良い」「やや良い」と回答。



木材利用の国産材や木材利用に関する知識について、知っていると回答した回答者の割合。3割弱の方があてはまるものはないと回答。